

ライフキャリア。チェーン

これからのキャリア戦略

山本 紳也

第5回
プライスイーターハウスコーパー
パートナー／筑波大学大学院客員教授

組立工のAさん63歳。若いときには半田ごてを持たせれば右に出るものはないと言われた。

定年退職後も週に3日会社に通って、若者の指導にあたって

る。時々、若者から「Aさん、教えてもらった通りにやっているとつもりなんです、どうもうまくいかないですよ。もう一度、教えてもらえますか」と頼られるのが、楽しくて仕方ないという。

65歳のBさんは営業一筋、3

社を渡り歩いてきた。今は、大型駐車場で誘導員をしている。

時には暴言もはかれ嫌なこともあるが、営業で辛かった経験に比べれば大したことではない。

いろいろな人達と会話ができ、ちょっとしたことで「ありがとう」と言ってもらえることで、とても充実感を味わえるという。

エンジニアとして商品開発や技術部門でキャリアを築いてきたCさんは、67歳になった今で

「仕事の型」の質的転換で キャリアを築ける環境を

も、ミドル時代に自分から新しいことに取り組むことで身につけた技術や技能を活かして、国内はもとより海外を飛び回り、いろいろな国の人たちに身振り手振りで技術・技能を伝承している。専門家としての自負と経験の活かせる現職は、キャリアの最終地点にふさわしい天職だと思っている。

このように、定年退職後も活き活きと働いている人たちが決して多数派だとは言わないが、彼らは、決してスパーマンなわけではない。

それぞれ、働いてきた会社や専門性は異なるものの、彼らに共通しているのは、

1. 若者の時代にそれぞれの専門のベースとなる「仕事の基本型」を身につけていること、
2. ミドルの時代に苦勞して他人には負けない専門性を身に

つけた「仕事の自分型」を持っていること、

3. シニアになって、これまでと全く異なる場で、ミドルまでに習得した「仕事の自分型」を活かすことに成功している「かわいい高齢者」になっていること、

先のミドルの回にもあるように、どのような時代を生きるかによって、それぞれが経験から得られるものは異なる。今の「若者」が今の「シニア」と同じキャリアを歩むとは思えない。

しかし、どんな時代でも、ライフキャリア・チェーンにおいてそれぞれのキャリア段階で求められるものは一貫しているのではない。それが、ここまで書いてきた、若者段階で求められる「仕事の基本型」（基礎的能力）であり、自ら良質な仕事

を取りに行くことでミドルで身につく「仕事の自分型」、そしてシニアではある意味自分をいったん捨てる（「気持切り替え力」による）ことで「皮剥け」仕事の市場型」に対応できる「かわいい高齢者」といえる。

今一度、しっかりと若者に仕事の基本型を身につけさせ、それをベースに自ら良質な仕事を取りに行くことで自分型を築ける環境を提供し、かわいい高齢者としてミドルまでのキャリアをシニアで活かせるライフキャリア・チェーンを作れる人材を増やす。

「仕事の型」の質的転換でキャリアを築ける社会環境。それが、今の日本において、企業なり社会なりに求められている。（LCCリサーチプロジェクトメンバー）

（おわり）